

■ 現状と課題

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、住民活動が止まり、交流やつながりの機会が途切れ、身近な地域の人顔が見えない状況が生まれました。時代の背景に応じた住民同士の新しい支え合いや誰もが参加できる地域活動の在り方を考えていくことが求められています。
- ・地域福祉活動に参加したい思いを持つ住民や誰かの役に立ちたいという思いを持った団体・企業等が多く存在していますが、そのつながりはまだ不十分です。そのような思いをつなぐ取り組みの必要があります。
- ・コロナ禍により経済が停滞する中で、多くの生活に困った人や在住外国人が相談窓口を訪れました。多様な暮らし方の尊重や細かい個別ニーズへの対応が求められます。

■ 地域での取り組み

- ・住民は、誰にとっても暮らしやすい地域づくりに向けて、自分にできることを取り組みます。
- ・団体は、子育て、障害、貧困等の対象となる人たちの安心できる居場所としての機能を果たすだけでなく、必要に応じて見守りや相談窓口につなげるなど積極的に活動します。
- ・企業は、SDGs(持続可能な開発目標)やCSR(企業の社会的責任)の観点から、地域に貢献したいという思いを発信し、貧困対策や環境保全等、様々な活動に取り組みます。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・地域福祉コーディネーターは積極的に地域へ出向く等、地域住民や活動団体との関係性の構築を図るとともに、地域のニーズや強みを把握し、住民のニーズに応じた活動を進めていきます。
- ・住民・団体・企業の「地域のために何かやりたい！誰かの役に立ちたい！」という声を受け止め、活動を支援するとともに、誰もが活動に参加できるよう支援の充実に努めます。
- ・練馬区社協のネットワークを生かし、福祉分野を超えた多様な個人・団体・企業が出会い、対話や交流できる機会(場)を作りながら、住民の自発的な企画・運営のサポートや、地域課題の解決に向けた取り組み等を一緒に考えます。

目指す姿

多様な主体がつながり協働できる地域



地域でこんな取り組みが広がっています

地域福祉コーディネーターの実践 ～気づき・つなぎ・広げる～

地域をつなぐ連携の推進～北町ネット～

地域福祉コーディネーターに北町地域の住民から、「この地域にどんな人がいて、どんなことをしているか知りたい」と相談が入りました。地域のことを気にかけてくれる、まさにネリーズの一言でした。



地域の社会資源やさまざまな活動を知っている地域福祉コーディネーターは、つながりのある活動団体等に声を掛け交流会を開催し、お互いを知る機会を設けました。

交流会は、福祉作業所の自主製品の活用や傾聴ボランティア活動などの連携につながり、やがて定例会に発展しました。



あるとき定例会で地域で起きている心配事が話題になった時、地域活動団体の方から「北町地域で同じ空気を吸っている人に幸せになってほしい」という発言がありました。参加者はこの発言に共感し、その心配事について一緒に考え、さまざまな意見が出ました。そうしてそのうちに、この場はそれぞれの活動から見える心配事などの話題をみんなで考える場になっていきました。

毎回、会場やテーマを参加者同士で持ち回りをするなど、参加者が主体的に定例会を展開しています。「異なる分野、業種の人のお話を聞くことで視野が広がった」、「自分たちが他にもできないことがないか以前より深く考えるようになった」、「日頃から連携しやすくなった」などの反響があり、現在もゆるやかにつながる定例会(北町ネット)は続いています。

他の分野の方から意見が聞けて課題解決に繋がった

顔の見える関係ができて相談しやすくなった。

ゆるやかなつながりの場が地域の複合的な課題を解決するきっかけの場になっています。



思いがつながり大きな力に

募金箱設置で地域貢献

個人・商店・企業・公共機関など、練馬区社協の募金箱設置という形でも地域づくりに協力くださっています。集まった募金は、障害者・子ども・高齢者等福祉施設の備品、地域活動の推進のための講座やイベント、相談会などに活用されています。

「お互い様の気持ちでみんなで支え合う地域にしたい」「少しでも地域のお役に立つことができれば、できることから始めたい」という思いが地域づくりにつながります。



町会・自治会

障害者地域生活支援センターきらら・ういんぐでは、町会・自治会の方と地域のお祭りや防災訓練を実施したり、地域の花壇整備や町会掲示板ポスター貼りをしています。地域での交流とともに、活動や役割の機会があることで、障害のある人が楽しく、いきいきとした地域生活につながっています。



個人情報保護法やIT化が進み、人と人とのつながりの希薄化や体験格差が大きな問題になっています。

「地域社会は子どもたちを育て、社会性をはぐくむゆりかご」
町会では若い世代も含め、人と人とのつながりを大切にしながら、お祭りや芋煮会など色々なイベントを通じて、将来を担う子どもたちの創造性や社会性を育てていけたらと思っています。

町会・自治会長の木内さん



練馬区老人クラブ連合会は、

昭和36年に発足しました。「さあ! いよいよ・これからだ!!」を合言葉に健康、友愛、奉仕を軸に「音楽健康体操教室」を実施したり、一人暮らしや外出が難しい会員仲間を訪問したり、公園清掃や募金活動などお互いに支えあいながら様々な活動に取り組んでいます。

これまで人とのつながりに恵まれ、困ったことがあったら人に助けてもらい暮らしてきました。受けた恩を直接その方にお返しできないこともあるので他の人に返す“恩送り”をしています。人は人と関わると力がつく実感しています。練馬区には3つの大学があるので、若い世代との交流もしていきたいです。知ること、自分の味方が一杯いることが大切だと思います。「これでいいのだ。」と本人と家族が思える暮らしを目指したいです。

練馬区老人クラブ連合会の岩瀬さん



民生・児童委員は、誰もが地域で安心して暮らせるよう高齢者や障害のある方、子育て中の方などの相談をお受けしたり、区や関係機関とのつなぎ役も担っています。



どんぐりの家



「地域のために!」と練馬区社協に遺贈された一軒家を“地域の居場所にしたい!”と元民生委員や町会と話し合い、ふれあいサロンやこども・おとな食堂・学習支援等、様々な活動が行われる多世代交流の場とし、今では、地域に根付いています。活動を周知しながら、地域づくりをしたい人や若い人と一緒に地域を良くしていきたいです。

勉強に来ていた不登校の子が、勉強ができるようになって面白くなったのか、学校に行くようになり、高校に合格したことが嬉しかったです。一緒に勉強した子が、教える側になってくれるといいなと思っています。

どんぐりの家 運営委員

在住外国人の生活相談から ~ともに地域で暮らす支え合いを目指して~

コロナ禍で在住外国人の相談が増え、練馬区社協では国際NGOや弁護士等と相談会を実施し、言葉の壁や社会保障制度等の事情による生活・仕事・在留資格等さまざまな相談事の解決に取り組んでいます。

智福寺まつり

きっかけはお寺の住職からの「地域にひらかれたお寺にしたい」という相談でした。まずは地域住民向けの終活セミナーからはじまり、やがて境内を使ったマルシェを定期開催するようになりました。さらに地元の子どもが遊び、住民同士が親睦を深める「智福寺まつり」の開催へと広がっています。

お寺と練馬区社協、障害者福祉施設、地元商店会等が協働し、「地域にひらかれたお寺づくり」「障害福祉の応援」「地元商店会の活性化」を合言葉に、地域がつながり元気になれるよう、それぞれの思いとネットワークを活かして地域を盛り上げています。

地域を支える スーパーマーケット

スーパーマーケットのピーコック高野台店では、家庭で余っている食品を店内に設置したボックスに集めるフードライブ活動に取り組んでいます。社員の方の心配りで多くの食料寄付が集まっています。

また、ライフココネリ練馬駅前店では様々な理由で販売はできないけれど品質に問題のない日用品や食材を定期的に練馬区社協へ寄付する活動をしています。

寄付で集まった食品は練馬区社協が定期的に受け取りに行き、生活に困窮している人や地域のこども食堂へお渡ししています。

